

みちのく 産業紀行

東北の新時代を求めて

80

空調企業は空調設備、冷暖房設備、給排水衛生設備などの設計、施工、保守管理のほか、空調機器類などの販売を手がけている。7—8年ぐらい前に「世の中にないものを作りたい」(宮部和夫会長)と、冷暖



宮部 会長

房の風を動力とする気流攪拌装置「ウインドウィル」の開発に着手。2008年に自社製品として発売した。価格は2個セットで3万円(消費税抜き、施工費別)。累計約6000台の販売実績を積み上げた。「夏なのに事務職の女性が膝掛けをしていた。部屋の温度のムラをなくし、こうした状況を改善したかった」。宮部会長は、冷暖房の力で室内空気を分散・対流させて室内温度差を低減する気流攪拌装置の開発のきっかけを、こう振り返る。

空調企業



気流攪拌装置のファンは冷暖房風と装置周囲の空気を混合させた風を吹き出せる。外羽根で周囲の空気を

のように二重羽根構造を採用した。内羽根に空調機器の冷暖房風を当てて回転させる。外羽根で周囲の空気を装置内に取り込み、下に吹き出す。

ファン成形するための金型づくりは、内羽根に空調機器型メーカーと連携して開発した。東北大学大学院工学研究科の青木秀之教授が室内気流シミュレーションを、仙台高等専門学校の内海康雄教授が教室での実証実験を担当した。電気を使わずに温度ムラを低減させたのは、30%以上の省エネルギー化につながることを確認した。またデザインは宮城県産業技術総合センターの協力を得た。

現在、力を入れているのは販路開拓だ。国内は大手コンビニエンスストアへの設置に向けて交渉中。一

気流攪拌装置 室温ムラ改善

方、海外展開も視野に入れる。6月に海外事業部を設置。インドネシアでの法人設立や、現地生産などを現地商社と検討している。

ウインドウィルをさらに効率化するための改良に取り組んでいるほか、このほかの自社製品の開発も検討中。宮部会長は「既存事業はもとより、自社製品で収益を底上げしたい」と、意欲を燃やしている。

▽社長 鈴木康司氏▽本社 仙台市宮城野区新田4の37の44、022・239・7571▽売上高 8億4000万円(2014年7月期)▽資本金 4000万円▽従業員 31人▽設立 1974年(昭49)9月 (火曜日に掲載)